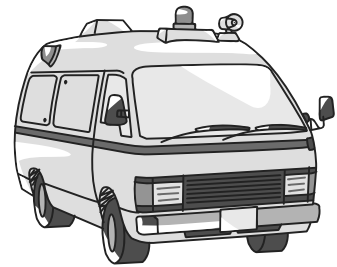


# つがる西北五広域連合からのお知らせ

## 西北五地域における 「自治体病院機能再編成マスタープラン」 を策定しました。

つがる西北五広域連合では、平成17年度当圏域の自治体病院機能再編成を着実に推進するため、平成14年度以降進めてきた成果を踏まえて、圏域の関係者が主体となり当面の課題の検討と、計画実現に向けた所要事項の整理を行い、自治体病院機能再編成マスタープランとして取りまとめ、平成18年2月7日のつがる西北五広域連合正副連合長会議で了承されました。



地域がひとつの病院となって地域住民が満足できるより良い医療サービスを提供するため、2市4町（五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、中泊町、鶴田町）で構成するつがる西北五広域連合が主体となって、地域医療を支えていく体制を構築するものです。

マスタープランでは、新たに医療の中心となる中核病院を建設し、周辺の自治体病院を慢性期医療の提供や外来診療、在宅医療などを担う医療機関に転換し、中核病院と一体運営しながら医療の連携を図り、一般的な医療が圏域で完結できる医療体制を構築することにより、現在当圏域が抱えている脳疾患や心疾患への対応、厳しさを増す医師不足や経営赤字などの課題の解決に向けた取り組みを行うものです。

新たに建設する中核病院は、病床数492床で計画、外来は1日当たり1,100人を見込んでいます。医療機能では圏域の高度医療と救急医療を担う病院を目指します。建設費の概算額は199億円（土地取得費含まず）と試算し、平成23年度中の開院をめざしています。

サテライト医療機関については、西北中央病院以外の既存の4自治体病院が機能転換を図ることになりますが、国の医療制度改革の動向、医師確保の見通し、今後の社会情勢の変化を見据え、継続して具体的なあり方の検討を進めます。

